



《将来に向けた取組方針》

《経団連生物多様性宣言・行動指針》に賛同し、「人を中心したオートメーション」の企業理念に基づき、持続可能な社会の実現向け、SDGsを新たな道標として、サステナビリティ経営をグローバルに展開していきます。

自然共生社会の実現に向けての具体的な取組方針として、ネイチャーポジティブの視点を持ち、事業を通じた生物多様性保全への貢献を継続し、取引先を含めたサプライチェーンでの取組みを推進するとともに、様々なパートナーシップとの協働を通じた自然環境保全活動の取組みを強化していきます。

《具体的取組み事例》

■事業を通じた環境課題解決 【生物多様性保全への貢献の事例】

➢ 海洋における生態系保全に貢献

大型船舶を対象とするバラスト水*管理条約により義務付けられたバラスト水処理装置へ、船舶事業で培った知見やノウハウ、船舶の認証に適合した製品などを活用したソリューションを提供しています。

※大型船舶が空荷の時に船体を安定させるために、船底へ積み込み込む海水のこと。バラスト水には動植物プランクトン、海藻の断片などの海洋生物が含まれ、これらが放出時に一緒に放出されるため、外来種移動の原因の一つと言われている



例：バラスト水の運用

■取引先様に対する生物多様性への取組み展開 【サプライチェーンへの取組みを推進】

➢ azbilグループ「生物多様性保全への取組み」に関するお願いを取引先様に配布し、生物多様性保全に対する考え方、事業活動と生物多様性との関わり、取組み事例などの解説文書を展開しています。

<https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/green/biodiversity.html>

■自然環境保全活動 【地域の特色を活かしたパートナーシップとの連携】

➢ NPOや、大学、地方自治体などと連携・協力しながら、azbilグループが拠点を置く身近な地域、事業所での自然環境保全活動に取組んでいます。(2011年度よりazbilグループ全体の活動として展開)

例：アズビル京都(株)にて「森林調査・整備」(認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン、京都大学)

南会津町にて「ひめさゆり(準絶滅危惧種)」(南会津町)

藤沢市にて「持続可能な緑地の実現」「カワセミとの共生を目的とした活動」(藤沢市、NPO法人藤沢グリーンスタッフの会)



藤沢市の森林での活動の様子